

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

元号も代わり はや二ヶ月。



「令和」の出典は万葉集の梅の花三十二首にあるそうです。春の薫りのする名前です。寒い冬から、梅の芳しい薫りと共に、明るい春の日に誘われて、まるでウキウキと出かけたくなる、そんな気分を現しています。万葉集が編まれたのは約1250年前ですが、その頃も、やはり温かい春の日は人々を明るい気持ちにさせたのです。梅の雨の潤いを蓄え、これから季節は夏へ。まもなくお盆会。万葉の昔から、今日まで過去を紡いでくれたご先祖様に感謝し、我々もまた、新元号と共に、気持ち新たに頑張つて参りましょう。

お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。



- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌香炉燭台花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子(みずのこ)」碗に清水を満した「開伽水(あかみず)」を供える
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そのめん、果物など夏の食物を供えください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！

法話のコーナー



最近、我が家は将棋ブームでして、特に10歳の息子が熱中しております。私自身はまったく疎いんですが、囲碁将棋のプロの方たちにはとても魅力的な方が多いですね。有名どころでは将棋の加藤ヒフミ九段。テレビでもおなじみのおもしろおじいちゃんですが、大変熱心なキリスト教徒としても有名です。飾らない真面目さが魅力的です。それから映画にもなった村山聖九段、天才羽生善治、若干16歳の藤井聡太7段など、枚挙にいとまがありません。そして囲碁界にも大変興味深い方が居ます。平成21年にお亡くなりになりましたが、藤沢秀行という方がいらっしゃいました。

お酒大好き女性大好きギャンブル大好き。その破天荒さと圧倒的な強さで多くのファンから熱狂的な支持を得た囲碁界の名人です。「囲碁は人間が打つんだから人間性を磨かなければならない」と、本を読み座禅を組み、自己を徹底的に鍛え上げついに最高位棋聖を6連覇という偉業を達成されました。藤沢さんは囲碁の秘訣を問われ「碁は打ちたいところに打つのが一番強くなる。誰がどう打つたからそつちの方が良いとかそんなの関係ない」とお答えになりました。

局では、定石の研究や過去の記録を調べを通して、対策を練ります。つまり、勝ちに繋がる確率や、自分の得意手を意識して打つのが通常だそうです。しかし藤沢さんは「過去に誰がどう打つたからそつちのほうがいいとか関係ない」と断言なさる。打ちたいところ打てば良い、これは至言だと思います。もちろん藤沢さんだって途方もない量の研究を重ね、あらゆる過去の譜面をさらけ、勉強は欠かさなかつたのです。その上で出た「自分の打ちたいところに打つ」という言葉だからこそ、意味があるのです。

囲碁将棋の魅力は「先がわからない」「戻れない」ことだと思います。その時その盤上で、自分の思う最善手を打つことに全力を注ぐ。この攻防にきらめく、命の輝きが一番の面白さではないかと思うのです。最善と違って打つた一手も、相手次第でどうなっていくかはわからない。だからこそ、今このときは、過去を振り返らず、未来を思うことなく、今この場で自分のできる最善の一手をそこに尽くしていく。それが藤沢さんをして、打ちたいところに打てば良い、という言葉になったのだと思います。もちろん何が最善かを考え打つのは経験と勉強なければなりません。で

きる努力は最大限やってきた、しかし、局面はどうなるかわからない。ならばいま出来ることはこの一手、これに尽きるのです。戻つて打ち直しても、この先どうするの相手に聞くこともできない。己の出来る最善の一手、最善の一手の積み重ね。膨大な勉強や稽古をまらごと自分に飲み込んで、今できる一手に全身全霊をかけていく。まさに過去を切り切り、未来を思わず、今この瞬間に全身全霊をかけていく、禅の真理そのものに通じると思うのです。過去を思いおこし、また未来を空想して、勝手に喜んで悲しんだりするのは無駄なことです。人生でも一手差し戻しはき効かないので

「過去に強い者が居ても無限の中のそういう人たちはすから別にたいしたことはない。じぶんは未だに碁がわからないから一生懸命工夫しているんです」

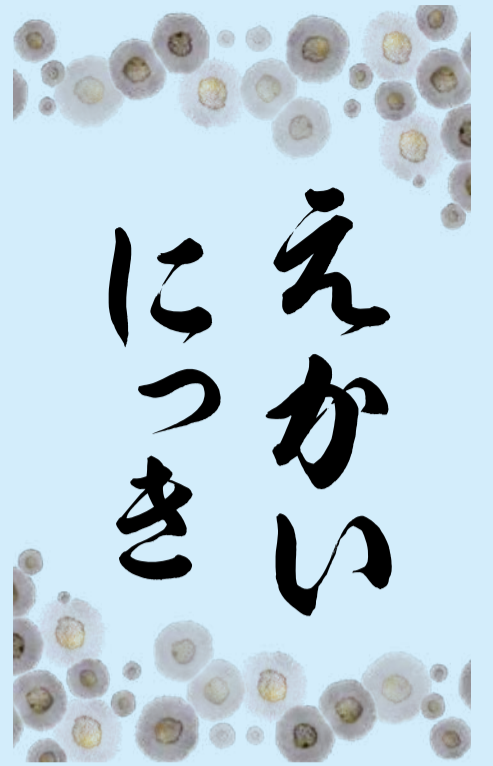
そうテレビのインタビューでお答えになりました。

亡くなる寸前、最後に書いた書は「強烈な努力」という言葉でした。盤上その生涯をかけ、最善の一手を打つために積み重ねていく「強烈な努力」。この言葉を聞くと、破天荒といわれながら、いかに真摯に碁と人生に取り組んでいらしたかがよくわかる気がします。東京入谷の小野照崎神社に「強烈な努力」の碑がたっています。

令和元年(平成31年) 年忌法要表

年忌	没年度
一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
五十回忌	昭和四十五年

お位牌に書かれた没年月日を確認してみてください。亡き人への報恩と自己を見つめ直す良い機会です。すすんで法要を行いましょう。



えかい につき



早いもので私がここ宝泉寺のお手伝いをさせて頂く様になってからはや十ヶ月が経過しました。私のお寺、接心庵の檀家さんにも数年前に八王子に引っ越された方がいらつしやいます。この方に「この度館町の宝泉寺さんで法務のお手伝いをさせて頂く事になりました」と報告しますと「ほう、あそこの立派なお寺かね。山奥寺の息子も出世したもんだ！」と喜んで頂きました。今回スペースを頂きまして、外側から見た宝泉寺のお話を書かせていただきます。

駐車場、お庭、池、墓地、本堂、キンキラキラと華やかな装飾ではない、如何にも禅宗寺院らしい凛とした風景がそこにはあります。八王子という街の中にあつてこの雰囲気を保ち続けるというのは容易では無いはずですが、接心庵の墓地は山奥にあり、周りを見渡しても竹林しか見えないのですが、ここ宝泉寺は違えます。少し階段を上りますとそこに広がるのは高尾山と富士山が同時に望める絶景です。以前お参りさせて頂いた時に施主様から「この景色が気に入ってここに決めただよ」と教えて頂きました。またよく晴れた日には近くの広場から子供たちの無邪気に遊ぶ声も聞こえてきます。お墓に眠るご先祖様方も退屈されないのでは無いでしょうか。

宝泉寺も接心庵も街中と山中と言う違いはございますが、多くの方々のお力添えを頂いて存在しているという事に違いはございません。寺族の方は勿論の事、墓地管理事務所の職員さん、別院のパートの皆さま、折に触

れ庭の手入れに来て下さる檀家さん。本当に色々な方のお陰でお寺と言うものは成り立っております。勿論今現在私も微力ながらその一端を担わせて

て頂いております。皆様と共に力を合わせてこの宝泉寺をお守りしていくという誓願を立てまして、結びとさせていただきます。 恵海

{ち} あいうえお用語辞典 (頂相ちんそうちんぞう)

禅宗では法を正しく伝えた証として、師匠の肖像画と賛(法語)を弟子に与えます。一度で本人そっくりに仕上げるのは難しく、何度も修正が為されるのが常であります。中国北宋の時代の起こりとされ、時代が移り変わりつつも今なおその荘厳な雰囲気は受け継がれております。



我が輩はニヤンである。



白課の境内巡回のついでに寺で遊ぶ。お寺には狸や狐やうみねのやぶがいろいろ見守りは大事な仕事である。しかし暑い...犬ではないが、入るぞ出てしまおう季節だ。

孟蘭盆会総供養の

お知らせ

本年七月十六日、毎年のお盆のご供養を行います。下記要領ですので、どうぞ墓参のご予定に合わせて、ご参加ください。
近年、仏様のあつた方々には事前にお知らせいたしましたが、そのほかの皆様にもご先祖供養の一つとして、是非ご参加ください。
お塔婆などお申し込みは宝泉寺まで直接お願いいたします。

〒九三〇九四四

東京都八王子市館町三四四

宝泉寺

TEL FAX 〇四二(六六)三三三三

info@housenji.net

孟蘭盆会総供養 ご案内

令和元年七月十六日(火曜)

第一部 午後二時より

第二部 午後五時より

(どちらにご参加いただいても結構です)

於 宝泉寺別院大ホール

所要時間は約一時間

塔婆一本三千元

供養布施五千元



墓地管理料納付のお願い

宝泉寺八王子南霊園、新八王子南霊園では毎年春に墓地の管理料の納付をお願いしております。彼岸会の通知と共に、振込用紙を同封したお知らせをお送りしておりますが、平成31年度分管理料をまだお納め頂いていない方は、なるべく速やかに御納付をお願いいたします。(年度末会計に於いて未収の多さを指摘されてしまいました...)

過去の納付状況や各お問い合わせは宝泉寺までお気軽にお問い合わせいたします。管理料は数年分まとめて納付することも出来ます。またご事情のある方は充分に考慮し対応いたしますので、どうぞご相談ください。

霊園管理事務所から 霊園だより

梅雨に終わり途端に暑い日々になりました。いかがお過ごしでしょうか。もうすぐお盆がやって参ります。お花・お線香をご用意して皆様の墓参をお待ち申し上げます。是非ご利用ください。また墓参に気になった外柵のズレや目地の欠けなどの修理、落ちにくい水垢掃除、墓地工事などありましたら管理事務所にお問い合わせください。もちろんお見積もりだけでも結構ですのでお気軽にどうぞ。
畑山

オスメ図書

「釈宗演と明治」

釋宗演は明治に活躍した禅僧で、若千32歳で鎌倉門覺寺の管長をなされた近世禅界の天才児。僧堂での修行を終えた後、福沢諭吉を慕って早稲田に入学、セイロンへ留学して東南アジアの仏教を学び、「禅こそ第一義」を更に確信。今世界的にブームになっている「ZEN」を初めて世界に向けて紹介された方です。鈴木大拙、西田幾多郎、夏目漱石、山岡鉄舟などの師であり、そのエネルギーに満ちた生涯に、禅僧のあり方を考えさせられます。
ぶうねま舎 2800円。

